



愛媛では「伊豫豆比古命神社」（いよひこのみこと・通称／椿神社）で毎年旧暦の正月八日に行われる「椿まつり」が伊予路に春を呼ぶ。「愛媛」はここに祀られている女神「愛比売命」（えひめのみこと）から名付けられた。

あきらめず闘いぬこう！

松山市在住
林 惠美



敗けてたまるか

伊予郡砥部町在住 三宮治夫

“JALの不当解雇に敗けてたまるか”
その一念で7年間頑張っている原告の仲間の姿には胸をうたれます。

寒風の中でのみかんもぎのアルバイト。時には添乗員として、時にはコンビニの店員として……。どんな思いで働いているのか。彼女らは、あの空に戻りたいのだ！！

JALは追い詰められている

不当解雇撤回の声は日に日に全国に拡がっています。「JALに東京オリンピックを担当する資格があるのか……」頑ななJALの労務経営に批判が強まっています。いよいよ、私たち支援共闘の出番の時です。

庭の沈丁花も、待ちわびてほろび始めた。

解雇され、地元へ戻るとほど同時に起きた福島原発事故。現在の人間の英知では制御できない放射能汚染の恐怖は愛媛でも既に鬨いが始められていた伊方原発運転差止訴訟の一員となる

「役者の息子の猿芝居」ある業界誌2月号の特集で植木義晴社長をこう取り上げていきました。うち続く役員解任劇、社内と社外向けの顔を演じ分け、氷のように頑なな労務手法に鋭い目が向けられています。だからこそ苦しまぎれの策謀を弄するのでしょうかが、それは弱音の表れなのです。

一致団結と包囲網の拡大を

支援の声を一層拡げて、一糸乱れず堂々と解決の運動を進めましょう。

1人でも多くの会員を！ なにより
1円でも多くのカンパを！ 究張れの一声を！
1枚でも多くの要請はがきを！

毎回ご夫婦で参加されている

(裏五)

(裏面に続く)

日本航空の不当解雇撤回をめざす 国民共闘会議第8回総会

”職場復帰” 早期解決迫る方針確認

日本航空の不当解雇撤回をめざす国民共闘会議は2月21日、東京都内で第8回総会を開催し、被解雇者の職場復帰などを求める統一要求にもとづき早期解決を迫る方針を確認しました。

当面の重点行動

- 3月 「私の代で解決したい」と述べた植木義晴社長が3月末で交代すること、IL0より第4次勧告が予測される状況を踏まえ、3月26日に日航本社前包囲大行動を配置し解決の決断を迫る。植木社長あて要請葉書に取り組む。
 - 5月 春闘結果・IL0勧告の分析を踏まえ、全国各地から日航に解決の決断を迫る全国統一行動を展開。
 - 6月 当該労組の夏季闘争状況もにらみつつ、株主総会に対応した行動等を検討する。



国民共闘会議第8回総会（2018年2月21日）

有名な沖電気の大量指名解雇事件。今ではイラクなどの戦場フォトジャーナリストとして著名な森住卓さんと藤田庄市さんが撮影した勝利までの8年間。貴重な写真集は凜として闘う姿と明るく生き生きした人間味溢れる労働者の姿がまぶしい。涙やうなだれている姿は不思議とない。本編では、一方的で理不尽な会社の仕打ちと闘う仲間の無念や怒りに同調する。ラストは闘つてこそ！の喜びが臨場感を持つて迫つてくる。藤田氏は

縫が引かれ、読むのも困難なほどである」（同弁護士）と書き込みがしてある。当時の Mさんの闘いから 40 年が過ぎてもこの国の働く者の権利はいがリアルタイムで伝わってくほとんど前進していないようである。

「ドキュメント日本航空」にこれ以上労働者を奴隸化させなも再び巡り会えた。日航労務のいためにあちこちで新しい闘い卑劣な組合潰しと闘い続けた先が始まっている。

達の歴史の上に今自分がいる必然に改めて誇りと確信を持つ。さな花たちはきっと大輪の花に私達の弁護団長である上條弁護なるに違いない。勝利までとも士が共著を執られた「労働裁判」に闘い抜こう！

「彼らは人間として大切な物を失うまいとしている。その人間の誇りを感じながら撮つていた」、森住氏は「人間らしく生きるとは何か。自分の生き方も試されている」と示唆に富んだ言葉をあとがきで贈つている。日立や三菱など大資本との不当解雇撤回闘争について、松川事件を闘つた上田弁護士の言葉は、J A L争議団への言葉として生きる。「相手の弱点に全力をあげて攻撃を集中することに成功したときに勝利の曙光が見えてくる」は、労働争議の教訓とともに日本の司法の本質を教えてくれた。戦前の体質をそのまま引き継いだ裁判所は、政財界の利益にかなう解決を法と正義の名によつて正当化する機関だと。